

### 〈連絡窓口担当〉からの御礼

第九回江戸里神楽公演学生実行委員会の公演開催事業につきましては、ご支援をいただきまして、まことにありがとうございました。

台風シーズンの真ん中で、晴天。とにかく公演が無事に開催されましたこと、ラッキーであったと神様に深く感謝しています。

ご出演団体様、ご来場の皆様、そしてご協賛会社様、多くの広報協力者様、シニア・学生スタッフ様のお気持ちが「さいたま芸術劇場」で結晶化されたこと、ありがたく思っております。

今回の公開事業でも、ツアー会社との連携など初めての案件と出会うことができ、この活動の楽しさや可能性を感じとることができました。学ぶことも多くありました。

さて、九回まで継続させていただきましたさいたま芸術劇場での公演開催事業ですが、〈第九回〉をもちまして、私自身の役割を終了させて頂こうと考えております。

箱根駅伝のように、復路でもゴールを目指したのですが、大手町まで届かず第九区までの参考記録で終了となりました。第十回は、新連絡窓口担当の登場により、歓喜のゴールシーンを待ちたいと考えています。

九回もの公演を重ねることにより、多くの方々が事業に参画してもらったこと、神楽に親しんでもらえたこと。事業の経過をウェブにて、少なからず公開できたこと。このことにより、公演が出来上がるまでのプロセスの見える化が少し実現したこと。また、シニアと学生スタッフが仕事を分担しながら、事業を進行させていくボランティア・モデルが実装化できる道筋を見出したことを10年の成果として宣言してもいいのではないかと、思っています。

今後は、ウェブ上に第九回公演に関する動画や記録写真データを適宜アップすること、調査・撮影によって得ることが出来た「神楽資料集」を少しでも公開・刊行できたら、と考えています。

ありがたいことに、学生スタッフとシニアスタッフ、出演団体（垣澤社中）の連携により、九回公演関係のまとめが実現できそうです。第九回公演学生スタッフの力を借りて、ウェブ上で「垣澤公演」のアーカイブス・モデルが構想・実現できたら、それも意義あることだと考えています。私自身は、閉店情報〈後始末の経過〉として、しばらくはいろいろな事案をアップできれば、と考えて

います。

十年間、公演開催事業を直接的に支えてくださった学生スタッフ、シニアスタッフさんにあらためて感謝申し上げます。公演当日、慌ただしく走り回ったスタッフの力があつたからこそ、九回の公演が実現しました。振り返りますと

当日はいつも早朝からいきなりの修羅場。地獄のブラック・ボランティア活動でした。この経験の共有こそがスタッフ・マインドのコアであり、誇りでした。劇場を駆け回った皆さん、ありがとうございました。

最後になりましたが、応援してくださったメディア様、助成団体様、ご出演された神楽継承団体様、プログラムへのご寄稿、講師を引き受けてくださった皆様、協賛各社様、劇場関係者様に対して、あらためて御礼を申し上げます。

相模里神楽 垣澤社中（厚木市酒井）さんのご登場を最後に私の活動も幕を閉じますが、このことも本当に良かったと思っています。

六十六部のように、「里神楽は面白いですよ」という経文を背負って、歩きながらのお札売り。柄杓を差し出して喜捨を乞いながらの巡礼の旅も一步届かず、という体たらくでした。

それでも、初回より励ましのお手紙をくださり、最後の最後まで劇場にお仲間を連れてお越しくくださり、心温まるプレゼントを届けてくださった方々に私は慰められました。そのことを宝としたいと思っています。確かには9月9日は夢のような時間が立ち現れていた、と記憶します。改めて、あの時間に出会うことができた皆様に深く御礼申し上げます。

2016年10月吉日

江戸里神楽公演学生実行会

連絡窓口担当 齊藤修平